

2018年12月16日

アドベント第3週礼拝説教要約

神の時のもとで

(マルコ13・28～37)

一、再臨についての示唆

きょう開かれている聖書箇所は、キリストの再臨について語っています。二千年前に、人として生まれられた神である主イエス・キリストは、私たちが受けなければならぬ義なる神からの裁きを受けてくださいました。キリストは十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に義なる神により、死人の内よりよみがえらせられ、天にのぼり、全能の父なる神の右に着座されましたが、再び来られるお方です。再臨は、教会にとつて極めて重たい内容の信仰です。

主イエス・キリストは再び来られます。ただし、いつなのか、どのように世界の教会にあらわれられるのか、同時なのか、地域によって異なるのか、それは私共には分かりません。分かっているのは「近い」ということです。28節、29節を見てまいりましょう。〈いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかならなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。そのように、これらのことが起こるのを見たら、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。〉と、主イエス・キリストは語られました。

〈戸口まで近づいている〉とは、すでに

1世紀の時代から始まっていた。かのパウロは、自分が生きているうちに再臨があると受け止めていたようです。当時の教会も同じです。しかし予測したように再臨が来なかったため、『福音書』という書物が書きあらわされ、発行されるようになったと考えられています。いずれにしても、私たちが受け止めるべき主イエス・キリストからのメッセージは、再臨が近いということです。ただし、いつなのかは分かりません。32節です。〈ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも知りません。ただ父だけが知っておられます。〉と、主は語られました。

そして、再臨に関して、もう一つたいせつなメッセージがあります。それは「目を覚ましていなさい」です。33節以降37節までくり返されていますが、33節を見てまいります。〈気をつけなさい。目をさまし、注意していなさい。その定めの時がいつだか、あなたがたは知らないからです。〉と、キリストは語られました。〈目をさまし、注意していなさい〉は強調を意図している表現です。なぜなら、同じ意味の言葉がくり返されているからです。「馬から落ちて、落馬して」とは言いませんが、主イエスは同じ内容のことをくり返して語られています。強調するためです。

まとめますと、次のようになります。

再臨、すなわちキリストがもう一度お出でになる日は近い、日程は分からない、目を覚ましていなさい、です。そのように、主イエスは語られました。

二、神の時のもとで

では、この箇所から何を聴き取った方がいいのでしょうか。それは、父・子・聖霊なる神は大きな御計画を持っておられるということです。〈創世記1・1初めに、神が天と地を創造した。〉とありますように、万物をつくられたお方は父・子・聖霊なる神です。でありますから、神のことを「創造主」と呼んでもよろしいです。しかし分からないことも、ごまんとあります。なぜ、病原菌があるのか。なぜ、ウイルスがあるのか。なぜ、恐竜を造られたのか、などなどです。聖書には書かれていません。聖書の執筆者となった方々が、病原菌やウイルスの存在が分からなかったからです。あるいは、恐竜についてもそうです。神話として登場する怪物は登場しますが、聖書に恐竜を探しても出てきません。

さて、大きな御計画を持っておられる神は、独り子イエス・キリストを遣わされました。すなわち、神が人となられました。それがクリスマスのお出来事です。しかも、キリストの誕生は、父・子・聖霊なる神の御計画によってもたらされました。ガラテヤ人への手紙4章4

節に〈しかし定めの時が来たので、神は

ご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。〉とあります。御子イエスが生まれられたのは〈定めの時〉でした。ですが、〈定めの時〉は、それが実現した後に分かれます。私共が、事前に神のなさる業を知ることができません。そこで、次のように受け止めたいかががでしょうか。「すべては神の主権のもとで起きている」と。ならば、委ねることがたいせつです。「委ねる」とは、何も考えないことではありません。むしろ、〈いちじくの木から、たとえを学びなさい〉と言われていますように、常に世界の動きを見続けることが必要です。自分の人生を見続けることが必要です。しかも、「目を覚ましていなさい」と語られていますから、主の前に眠ってはいけません。

いかがでしょうか。皆さまは自分の人生に、見えない神の主権を認めますか。見えない神が、イエス・キリストによって見えるようになっていきますか。そういう人は、不平不満から根本的に解放されています。どんなことでも受け入れられるようになります。なぜなら、大きな意味で、すべてのことが創造主なる神、イエス・キリストの父なる神、父・子・聖霊なる神の主権のもとで起きていますと信じていることができるからです。これが救われている者の姿です。